



| | |
|--------------|---|
| Title | ロリィタファッションに関する研究の基礎的考察 |
| Author(s) | 坂田, 彩美; 山本, 泉 |
| Citation | デザイン理論. 2016, 67, p. 92-93 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/56345 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ロリィタファッションに関する研究の基礎的考察

坂田彩美・山本 泉／武庫川女子大学大学院・武庫川女子大学

1. はじめに

ロリィタファッションとは過度とも言えるほどフリルやレース、リボンなどで装飾を施し、パニエを用いて大きく膨らませたスカートが特徴的な日本のストリートファッションである。このファッションはマンガやアニメなどのサブカルチャーのひとつとして世界中からも注目を集めている。こういった経緯や派手な見た目からか、コスプレと同一視されることや、特殊な装いであると思われることも少なくないが、着用者の多くはあくまでもファッションとして認識しており、特殊な装いであるとは考えていない。本研究ではロリィタファッションのルーツや着用者の声、地域文化との関係性などからロリィタファッションの本質を探っていく。

2. 分類と特徴

ロリィタファッションは色や素材などからいくつかに分類することができる。ここでは、雑誌や文献を参考に大まかに甘ロリィタ、クラシカルロリィタ、ゴシックアンドロリィタの3種類に分類した。ただし、ストリートファッションの特性上、着用者が新しいロリィタファッションを定義すればそれが成立するため、全てのロリィタファッションがこの3種類に含まれるわけではない。

2-1. 甘ロリィタ (画像1)

パステルカラーを基調とした一番少女趣味的ともいえるスタイルである。動物柄や洋菓子柄が多く、不思議の国のアリス柄も好まれる。嶽本野ばらの小説「下妻物語」で有名になった。

2-2. クラシカルロリィタ (画像2)

くすんだ色合いで無地やチェック柄、花柄などが好まれる。3種類の中では一番スカート丈が長く、ボリュームも控えめであることが多い。中世ヨーロッパの貴族やお嬢様を意識したスタイルである。

2-3. ゴシックアンドロリィタ (画像3)

モノトーンを基調とし、さし色にパープルや暗い赤色などが使われる。ヴィジュアル系やパンクロックバンドの影響を強く受けている。また、「ゴスロリ」という言葉も広く知られているが、ゴスロリはこのゴシックアンドロリィタの略称である。



画像1
甘ロリィタ



画像2
クラシカル
ロリィタ



画像3
ゴシックアンド
ロリィタ

3. 背景と成立

ロリィタファッションは1980年代に流行したロマンティックファッションを源流とする説が有力である。フリルやレース、リボンを多用する点では似ているが、ロマンティックファッションのスカート丈やシルエットなどから考えて、この2つは似て非なるものであ



画像4 ロマンティックファッション

る。しかし、ロリィタファッションの世界で注目を集めている人物はこの時代を生きた人たちであり、ロマンティックファッションブランドから独立してロリィタファッションブランドを立ち上げたデザイナーもいることから、完全に切り離すこともできない。そこで、ロリィタファッションブランドのデザイナーに特殊な経歴や共通点があるのかという視点から調査を行ったが、経歴は様々であり、目立った特徴は見つけられなかった。

また、ロリィタファッション発祥の地を探るために本社所在地を調べたところ、他のアパレル企業に比べて本社が関西地区に多く、そのうち甘ロリィタブランドは東京都に、クラシカルロリィタやゴシックアンドロリィタブランドは関西地区に集中していることがわかった。県民性に関する調査報告より、関東では消費的な側面から流行的な甘ロリィタが、関西では納得できるものにお金を惜しまない消費傾向から独特の近寄りがたいクラシカルロリィタ、ゴシックアンドロリィタが好まれる、という仮説を立てられるが、学術的な検証が難しいため慎重な検討が必要である。

4. ロリィタファッションと性

ロリィタファッションについて論じる時、同時に性的なことについて論じられることが

多い。このことについて、着用者が10歳代から20歳代の女性に集中しており、そもそも性的な目を向けられやすいことが指摘されている。また、ロリィタファッションの世界で注目を集めている作家の嶽本野ばらと作家でありアーティストの大槻ケンヂの存在がある。彼らの作品にはロリィタファッションを着用した女性が多く登場し、性描写も多い。このことについて嶽本野ばらは明確な発言はないが、大槻ケンヂは自身が性的な目でゴシックアンドロリィタを見ていることを明言している。着用者との意識の差がこの点にも表れていると言える。

5. 聞き取り調査

ロリィタファッションを日常的に着用する2名の聞き取り調査から、いくつかの共通点と異なる点を抽出した。これらの点が個人的なものなのか普遍的なものなのかを、さらに聞き取り調査を重ねて調べていきたい。

6. おわりに

ロリィタファッションはロマンティックファッションを源流とすると考えられているファッションである。ロマンティックファッションから続いているものとする約40年の歴史があることになるので、これからも続いていくスタイルであるとも言える。また、着る人にとっては日常だが、見る人にとっては非日常感を感じさせ、時として性的な対象ともなり得るように、着る人と見る人の意識の差が大きいことも特徴である。さらに着用者のインタビューからはファッションにとどまらない自己実現的な側面も見ることができた。今後はコスプレとの関係や地域文化との関わり、ルーツとされるロマンティックファッションとの関係性、広がりをもせる海外の動向にも目を向けて調査を進めたい。